

日本臨床栄養協会理事長に就任して

日本臨床栄養協会理事長 久保 明(58回)



年、東海大学医学部東京病院における「抗加齢ドック」設立に尽力、客員教授となって今に至ります。

現在診療は医療法人財団百葉の会銀座医院で月8〜9回、医療・健康関連の企業への戦略的支援、日本臨床栄養協会、日本健診医学会などの学会・研究会活動を行っています。

この度日本臨床栄養協会理事長(8代目)に就任いたしました58回生の久保 明です。1979年の卒業と同時に東京都済生会中央病院内科に入局し、糖尿病・内分泌を専門として米国ワシントン大学(シアトル)医学部の短期留学を経て1996年高輪メディカルクリニックを設立しました。健康寿命ドックを通じたエイジングの臨床データを蓄積し、2006

血小板動態、AGES(終末糖化産物)の臨床的意義、抗加齢ドック受診者の解析などを通じて栄養、サプリメント、身体活動、メンタルの健康寿命への影響を痛感し、臨床栄養協会では協会誌(NDTニューダイエツ

トセラピー)編集委員長、NR/SA(栄養情報担当者・サプリメントアドバイザー)養成事業、種々のセミナー企画・実践に関わってきました。

今後本協会の方向性として2点を挙げたいと思います。

1. 会員の多くを占める栄養士・管理栄養士・薬剤師の参加を求めつつ会員数増加を図る。そのためには医療施設、スポーツ関連施設、薬局のみならず介護・福祉施設における実践・活躍の場をつくって国民の栄養に関する理解を深める。その礎としてのNR/SA制度を充実・衆知させる。

2. 健康寿命延伸を実現するにあたって日本臨床栄養学会、栄養士会をはじめ日本健診医学会、臨床運動指導士会、リハビリテーション、メンタルケア領域などの関連団体と連携する。

数えきれない方々の力添えでここまでできました。一部にはなりません名前をあげさせていただきます。謝意を表します。

臨床の場でむしろ教えられることの多かった受診者や関連企業の方々。臨床の場を与えて頂いている湖山医療福祉グループ湖山泰成代表、銀座医院の先生方。臨床栄養学会理事長菅野義彦先生(62回)。臨床研究の扉を開いて頂いた松岡健平先生(故人 48回)、谷野隆三郎先生(40回)、池田康夫先生(49回)、西崎泰弘先生。ともに学

んだ(遊んだ?)高木誠・高橋幸則・高橋守先生(58回)、主治医でもある大島充一先生(59回)、異なる分野を教えて頂ける鴨下泉先生。常葉大学健康科学部学部長時代に支えていただいた加藤倫卓先生、須藤遙先生(78回)。

特に協会に入ってからご指導いただいた橋詰直孝・小沼富男・多田紀夫(51回)の各理事長には心から感謝いたします。協会の屋台骨を支える

千葉一敏事務局長とスタッフの方々、久保明事務所スタッフ、妻令子、息子夫婦・娘夫婦・孫、そしていつも教えられる兄の久保一郎先生に感謝。三四会会員の先生方のご健勝、ご活躍を心から願っております。